

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林研究費

事業名 県産大径材利用拡大プロジェクト事業費 (R8分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

森林研究所 電話番号：0575-33-2585

E-mail : c25108@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 補正要求額

2,941 千円 (現計予算額：

0 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	2,941	1,279	0	0	0	0	0	0	1,662
決定額	2,941	1,279	0	0	0	0	0	0	1,662

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

森林資源はスギ、ヒノキとともに大径化しているが、大径化した原木の需要が少ないことが大きな問題である。大径材や虫害材は今後益々増加するため、大径材、虫害材の用途拡大を図ることが急務である。そこで、地域の企業などと一体となったネットワーク型の研究体制で、大径材・虫害材を活用した製品・技術開発や平角材（建築物の梁枠材が主な用途）の品質向上に向けた技術開発を行い、県内中小製材工場の将来を見据えた研究として実施する。

(2) 事業内容

○継続研究課題 1 課題

- ・大径材・虫害材を活用した構造材製品の開発と品質向上 (R 7～9)

中小製材工場が連携した生産体制により供給可能なヒノキ心持ち長尺接着重ね梁の製造手法（大型プレス機を要しない技術）の開発を行うとともに、県内中小製材工場が生産する平角材の人工乾燥技術の改善による品質向上を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

試験研究には試行錯誤が伴い、取り組んでも必ず成果が出るとは限らないなどリスクも大きいため、民間が自ら試験研究を実施することは困難である。よって、県が主体となつて試験研究に取り組む必要がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	353	職員旅費（調査、打合せ、情報収集）
需用費	558	試験や調査のための消耗品購入
備品費	0	
委託料	2,000	重ね梁製造委託
その他	30	学会参加負担金等
合計	2,941	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第4期岐阜県森林づくり基本計画（R4～R8）
- ・岐阜県林政部研究推進方針に基づいた森林研究所推進計画（R4～R8）

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「第4期岐阜県森林づくり基本計画」及び「森林研究所推進計画」に沿って、①健全部で豊かな森林づくりの推進、②林業及び木材産業の振興、③人づくり及び仕組みづくりの推進を柱に、県民・産業界のニーズに応える研究開発を進める。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R元)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R9)累積	達成率
①技術移転数 (累積)	—	8	10	12	16	50%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	所定の方法で製造したヒノキ長尺接着重ね梁の曲げ強度試験を実施した結果、曲げ強さ、曲げヤング係数とともにJASで定める基準値を満たすものであった。ヒノキ材の加工工程では、前年までの結果を踏まえ、製材段階での歩増し量を低下させることができた。また、乾燥工程を改良するための所内試験を実施し、工場における試作品製造で実証することができた。
令和5年度	大径材ヒノキを活用し対象異等級構成の3段重ね材を試作し、全ての試験材でJAS基準値を満たした。また、乾燥スケジュールを改良し、歩留まりが向上とともにJAS基準値である含水率13%を満たすことができるようになった。また、スギ大径材からの心去り平角材の高温乾燥法による短期間の乾燥スケジュールを検討し、中間蒸煮による内部割れ低減効果を確認することができた。
	指標① 目標： 16 実績： 8 達成率： 50 %
令和6年度	令和7年度当初予算にて追加
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	年々増加する大径材の加工技術開発や新たな製品開発は、県内木材団体や製材工場からの要望も高く、地域経済の活性化に貢献するため、事業の必要性は高い。また、大径材の利用促進に関する現場関係者からの技術相談は増えており、事業の必要性も増加している。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	(評価) 2
	研究課題の計画書や進捗状況を定期的に確認しながら、軌道修正及び効率化を図っていく。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

今後、大径材の加工技術開発の必要性は増加するが、新たな魅力ある製品、低コストで普及しやすい製品の開発が必要であるため、業界関係者から情報を収集しながら研究を進めていく必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

企業・団体の相談・要望から得られた課題やニーズを踏まえつつ、新製品や新技術の開発の方向性を検討していく必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	